

診断でニーズ掘り起し

生コン側から技術提案

福井県コンクリート診断士会

石川裕夏会長



構造物竣工時に不具合が生じた場合に適切に対処が取れるように

生コン業界でもコンクリート診断士の取得者が徐々に増えている。コンクリート構造物の劣化の調査・診断を行う診断士と生コン製造業は直接的な関わりがないように見えるが、製造した生コンそのものにも関わるため、診断士取得を目指す技術者も多い。また、各地にコンクリート診断士会が設立され、生コン業界の関係者が会長を務めるなど関係も深まっている。そこで、東京、福井、高知の診断士会の会長に生コン業界と診断士をテーマに話を聞いた。

造物の診断に関する知識を深めることで、自分たちが製造、出荷している生コンの問題点や課題を抽出して、今後の製造に活かすこともできる。構造物の長寿命化の考えを生コン製造にフィードバックすることもでき、診断士を取得することで得られるメリットは多い。

当社が出荷している環境配慮型ひび割れ低減コンクリート「福井宇部FBCコン」は自らが診断業務を行うなかで、高炉セメントB種を使用したコンクリートに温度ひび割れが多く見られたことからピントを得て技術開発に至った。フライアッシュを混合することで高炉セメントB種の弱点を克服し、温度ひび割れや乾燥収縮ひび割れを低減したコンクリートを実現できた。

近年は既存構造物の維持補修がクローズアップされており、当社で補修材料を販売する機会も急増している。構造物を適切に診断するスキルがあれば、ユーザーの要望に応じた最適な補修材料や補修工法を提案できる。診断士がいることで取引先に対して、信頼感や安心感を与えることもでき、信頼性の高い会社であるということが対外的にPRできるというメリットもある。

診断士資格を取得することは他業種の技術者と交流を深めるきっかけにもなる。診断士はゼネコンやコンサルタントなどの業種に加えて、官公庁の技術者も取得している。全国のコンクリート診断士会などの場を通じて、生コン製造業以外の業種の技術者と接点を持つことで技術者としての視野も広がる。診断業務のなかであらゆる構造物を診断し、他業種の技術者と交流することは、物の見方や考え方を学ぶことにもつながり、人間形成にもなる。これは非常に大きなメリットだ。

生コン技術者として業界で生き残っていくためには、コンクリート主任技士だけでなく、診断士も必要な資格となっている。例えば、小論文は劣化した構造物の写真を見て、その状態を的確に把握したうえで他者にわかりやすく明確に説明することが問われる。技術的な知識だけでなく、社会情勢も加味して適切な内容の文章を書くことも求められており、技術者として広い視野を持つていくかどうかのポイントとなる。難関な資格だが、取得できればそのメリットは多い。

診断業務で既存構造物の問題点を見つけ出すことでこれまでになかった新しいニーズの掘り起しもできる。近年、ゼネコン各社は技術提案で物件を受注することが主流となつてい

る。ニーズをいち早く見つけ出し、ゼネコンに対して技術的な提案ができれば他社との差別化を図ることもできる。

診断士が行う業務は生コン製造者にとつては専門外の分野のものが少なくない。構造物の調査方法や診断結果の説明は生コン製造者

が日常業務のなかで行うことがないものだ。従って、試験の難易度も高く、取得は容易ではない。